



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2023/01/09

日本現代史シリーズ #1

—なぜソ連は短期間で原爆製造に成功できたのか—

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。



ドストエフスキーの大作の1つに『悪霊 (あくりょう)』という小説があります。1ページ目の最初に何が出て来るかというと、新約聖書ルカの福音書8章。イエス・キリストがガリラヤ湖から陸地に上陸した時、悪霊 (あくれい) に憑かれた男が迎えに出て来る。この小説は聖書に始まる小説なんですね。

イエスを迎えるこの男は悪霊に憑かれていて真っ裸。大声で叫んでいる。墓場に住んでいる。だれも押さえつけることができない怪力の持ち主。人間の姿をした、人間ではない獣のような生き方をしている人物。

しかし、それは彼の意思ではなく、彼の中に入ってしまった悪霊 (あくれい) によるのでした。キリストが彼の中から悪霊を追放すると、彼は正気に戻り、イエスについて行くという記事です。彼を苦しめていたのは悪霊。悪霊が入ると自ら破滅的な生き方をしてしまう。

ドストエフスキーは、なぜこんな記事を小説の冒頭に引用したのでしょうか。この小説の主人公 ニコライ・スタヴローギンは非常に知的・頑健・ハンサムで、とっても魅力的。そして、実に冷酷でニヒリスト。かつて、少女を凌辱して死なせるということをやってのけている。

この小説には色んな立場・思想の登場人物がいますが、みんなニコライと関わることによって自分の思想が過激化し、破滅して行くんです。彼の口から出る一つひとつの言葉によって考えが狂って行く。というか、人生が狂って行く。自分の思想が変質して行き、みんな破滅して行くのです。

世の中には恐ろしいものがたくさんありますね。病原菌・天変地異・原子爆弾、色々ありますが、ドストエフスキーによると、最も恐ろしいものは人の口から出て来る革命思想。革命思想によって考えがすっかり破滅的思想になると、自ら破滅的人生を選ばざるを得なくなってしまうというわけです。

この革命思想の本質をひと言で言うと嘘。フェイク。フェイクをファクトと勘違いすると、フェイクによってファクトがひっくり返って行きます。人生が覆されてしまうんですね。

ルカの福音書の中で、悪霊に憑かれた男はイエス・キリストという正真正銘のファクトと出会って初めて解放された。キリストの中に救いがあることを、ドストエフスキーは言いたかったんでしょう。

2023年の冒頭にこのお話をするのは、今年は国際情勢において、いよいよのつぴきならないところに我々は突っ込んで行くことになる、と考えるからです。

特に、台湾を巡る米中の対立は一層深刻化して行きます。

そんな状況の中、日本にニコライ・スタヴローギンのような活動をする人たちが必ず出て来ます。いや、既に出て来ました。今まで日本は他国の思想工作によって、こっぴどい目に遭って来た。

そのことを実証している歴史的文書があります。『ヴェノナ文書』。

アメリカ国内にいるソ連のスパイがソ連本国に機密電報を打電します。

それを傍受して解読し、1995年にアメリカの軍情報機関が公開しました。

1995年はソ連が崩壊し消滅してもう5年経っている。今ならもう公開してもいいだろうということで、アメリカ政府はその情報公開を許可したんですね。

アメリカという国は、どんな機密情報であっても、基本的には30年経ったら情報公開します。

それによって、税金で運営されているこの政府が国民に内緒で悪さをすることがないよう、それを抑止するようにしているんですね。

ぜひ日本もそのようにしてもらいたいと私は考えています。

ヴェノナ文書の解読により、今まで歴史の謎だと思われていたことの全貌が、次々明らかになり出したんです。ヴェノナ文書は今もちゃんと公開されていて、インターネットで見ることができます。

例えば『ローゼンバーグ事件』。

アメリカは1945年に、人類史上初の原子爆弾を3発完成させました。

1発は実験に使い、1発は広島、もう1発は長崎に投下した。

この原爆を作る計画は「マンハッタン計画」と呼ばれ、アメリカは総力を掛け、巨額の費用をつぎ込み、科学者と技術者を動員して、ようやくのことで原子爆弾の製造に成功したのです。

ところが、アメリカがそれを成功させてわずか4年後に、ソ連も核実験に成功したんですね。

なぜソ連は、たった4年で成功することができたのか。

実は原爆製造の機密情報をソ連に流した人たちがいたんです。それがローゼンバーグ夫婦。

彼らはドイツからアメリカに渡ったユダヤ人で共産主義者でした。

アメリカだけが核を独占すると、共産主義のソ連がピンチになるということを恐れ、ソ連に有利になるように核兵器の情報を流したんです。

その情報を基にソ連は核兵器製造に成功し、そして、米ソ冷戦時代が幕を開けたんですよ。

彼らは1950年に死刑になりましたが、執行される直前までずっと言い続けて来たことがあります。

「冤罪だ！無罪だ！我々に罪をかぶせている！我々はスパイではない！」

FBIは彼らを捜査する時に、「全貌を明らかにして供述するなら死刑にはしない」と取り引きを持ちかけたのですが、「私たちはスパイじゃない」と主張して、とうとう死刑になった。

直前の遺言があります。「私たちはアメリカファシズムの最初の犠牲者です。」

それで、本当に犯人だったのか、スパイだったのか、或いは無実の罪で処刑されたのか、よく分からないとされていたのですが、ヴェノナ文書によってはっきりしました。スパイです。

ヴェノナ文書から、彼らだけでなく、マンハッタン計画に参加していた科学者の数人が、ソ連のスパイとして核兵器開発技術情報をソ連側に横流ししていたことが明らかになったんです。

今まで、なぜソ連が短期間にそんなことが出来たのか不思議だったのですが、やはりスパイが潜伏していたことが分かったんです。こんなの序の口なんですよ。
ヴェノナ文書によって、次々歴史の“はてな”が解けて行くのです。

私は PHP 研究所が出版した『ヴェノナ 解読されたソ連の暗号とスパイ活動』という分厚い本と、日本の情報史研究家 江崎道朗（えざき みちお）さんの本『日本は誰と戦ったのか』『米国共産党調書』を参考にしています。

それを読むことによって、日本がいかにかいようにされて来たのかがハッキリします。
既に過去になってしまった事ですが、今それを知ることが、これから日本が進むべき道においてヒントになるのではないかと考えるんですね。

なので、日本において行われた様々な工作についてしばらく発信して行きますので、関心がおありでしたらお付き合い願いたいと思います。

チャンネル登録もお願いします。ではまた ごうちゃんねるでお目にかかりましょう。
皆さん、お元気でいてください。さよなら！